

日交研シリーズ A-647

平成 26 年度共同研究プロジェクト

「今後の交通安全対策への活用を意図した交通事故費用推計のあり方の検討」

刊行：2016 年 1 月

今後の交通安全対策への活用を意図した交通事故費用推計のあり方の検討

Estimation of Social Loss Caused by Road Traffic Accidents
for Decisions of Future Safety Measurement

主査：鹿島 茂（中央大学教授）

Shigeru KASHIMA

要 旨

最近の自動運転に向けた取り組みに代表されるように、交通事故自体の発生を抑制することを目的とした安全対策に関する検討が精力的に実施されている。このような社会的な取り組みに対し、効果の検証等で重要な役割を演じる事故データの整備においても事故全体の傾向を把握できるように検討してゆく必要がある。事故自体を削減することが目的であるため、事故による死者数だけでなく損害全体の把握が必要である。また、予防安全性の検討では、そもそも、衝突に対する人身被害の発生率だけでなく、衝突自体がどの程度発生するのかを扱う必要がある。このような把握には、ニアミスあるいはヒヤリハットデータの活用が期待されている。そこで、本プロジェクトでは、以下の検討をおこなった。

第 2 章では、交通事故総合分析センターが管理する交通事故件数に関するデータを用いて、人身事故一件あたりに発生する死傷者数および巻き込まれた車両数に関する分析を事故タイプ別に行った。次に第 3 章では、アンケートにより調査されたヒヤリハットへの遭遇頻度に関する調査の分析を実施した。また、第 4 章では、事故データ、アンケートで調査されたヒヤリハット遭遇実態、ドライブレコーダで記録されたデータから得られるニアミス遭遇実態といった複数のデータの関連性をつかむことに取り組んだ。そして、第 5 章では、今後、ドライブレコーダのデータを充実させることを目的として、大量に記録されるドライブレコーダデータからニアミス候補データを抽出する方法の改良に向けた検討を行った。

キーワード：道路交通事故、事故件数、死傷者数、損害物数、ニアミス

Keywords : Road Traffic Accident, Number of Accidents, Fatalities, Injuries and Objects,
Near Accidents